

その他の広葉樹

Needlewood / *Schima wallichii* / Iju / イ ジ ユ

主に琉球諸島と南方の島の山林に自生し、現在は広葉樹の二次林や森の道扱いなどで高さ 10m 以上にも育つ。濃い茶色の樹皮に、枝先に生える光沢のある深緑の葉は縁に鋸歯があり、花は白く、5 月～7 月に多く咲き、濃い葉とのコントラストが鮮やかである。香りも強く、多くの昆虫を引き寄せる。奄美大島には、日本画家の田中一村(1908-1977)のコレクションを展示する美術館があり、イジュの花は島の梅雨の季節のシンボルであった。彼の絵には、イジュの木が描かれたものが奄美空港近くの田中一村記念美術館で見ることができる。

Southern Japanese laurel / *Aucuba japonica* var. *ovoidea* / Nangoku-aoki /

ナ ン ゴ ク ア オ キ

常緑樹であるナンゴクアオキは、日本南部の島の山林に高さ 2~3m ほどの高さに育つ。奄美大島では主に湯湾岳や奄美自然観察の森で見られる。緑色の幹を持ち、葉は緑で鋭い。春には枝先に濃い赤紫の花を、多数の幹が細かく枝分かれした先に咲く。その後、直径 2 cm 程の真っ赤な実を付ける。ナンゴクアオキは、雄花と雌花が同一個体上にある、雌雄同株である。

Sweet leaf / *Symplocos microcalyx* / Ama-shiba / ア マ シ バ

この常緑低木が育つ最北の地が奄美大島であり、川沿いや石灰石ではない山の尾根の土俵に育つ。枝は濃い茶色で、光沢のある葉は、楕円形で縁に鋸歯がある。小さな純白の花は春に咲き、花弁より雄しべが多く突き出て、葉の間に咲く房状の花は森に雪を散らしたようである。若葉を噛むと甘みがあるため、アマシバの名がついた。